
旭川市学力向上
授業ポイント集

国語

国語科の授業づくりQ&A(単元編)



Q1 まず何から始めればいいのか？



A1 指導事項を確認しましょう！

国語科は「言語活動を通して、指導事項を指導する」教科です。ですから、国語の授業づくりは指導事項の確認から始まるのが鉄則です。当該単元の指導事項は、教師用指導書や各学校の教育課程で簡単に確認することができます。

指導事項を確認した後は、指導事項に示された言葉の力を身に付けた具体の姿（ゴールの姿）をイメージし、その実現に適した言語活動を構想します。



Q2 言語活動はどのように設定するの？



A2 児童生徒の実態を踏まえましょう！

言語活動は、当該単元の指導事項を指導するのに適した言語活動が教科書に例示されていますし、各学校の教育課程にも示されていますので、それらを踏まえることが基本です。その上で、学級の児童生徒の実態等を踏まえて、興味関心を生かした題材の設定、他教科等や行事との関連、地域の教育資源の活用などの視点から、言語活動を工夫することも大切です。



Q3 言語活動を効果的に設定するコツは？



A3 先生が事前にやってみましょう！

教師が実際に言語活動を行ってみるにより、新たな気づきが生まれることが多くあります。例えば、必要となる時間の目処、児童生徒がつまずきそうな点、言語活動の遂行に必要な手がかりなどが挙げられます。

学級の子どもを具体的にイメージしながら言語活動を試してみることも大切です。児童生徒に与える手がかりの内容やレベル、発問や指示の具体、個・ペア・グループなどの学習形態、求めるB規準の具体の姿、時間配分などが、学級の実態に応じたものになり、付けたい力を付けるために適した言語活動が設定できます。



Q4 単元の指導計画を立てるポイントは？



A4 3次構成を基本に考えましょう！

課題意識の醸成と課題解決の見通し、単元を通じた言語活動、身に付けた言葉の力の自覚、の3次構成を基本として考えてみましょう。

また、基本的には、当該単元の領域の指導事項に沿って学習を展開（例「書くこと」の場合：題材の設定・情報の収集・内容の検討→構成の検討→考えの形成・記述→推敲→共有）しますが、当該単元の重点となっている指導事項を指導する活動を充実させることが大切です。



Q5 単元の評価はどうしたらいい？



A5 指導事項と正対させましょう！

当該単元の指導事項を指導するための言語活動を設定しているのですから、例えば次の例のように、言語活動の遂行状況を見取って評価することが基本です。

- 小学校4年生において、礼状を書く活動を通して、「文章の構成」について考える力や、書いた後に読み直して「文や文章を整える」力が育まれたか評価する。
- 中学校2年生において、プレゼンテーションする活動を通して、「根拠の適切さ」や「論理の展開」などについて効果的に構成する力が育まれたか評価する。

また、次のように、単元を通じた言語活動を遂行した後に、その力を活用する場面を設定し、評価することも考えられます。

- 上記の礼状を書く活動において、一度書き方を学習した後で、実際に送る礼状を書く活動を設定し、「文章の構成」「文や文章を整える」力を評価する。

課題の見られる評価の仕方としては、例えば次のような場面が見られます。

▼教材文をもとにして「作者の表現の工夫やその効果について考える力」を育む言語活動を行った後、市販のテストなどを用いて教材文の「登場人物の相互関係や心情」を問い、その点数で評価するなど、単元の学習や指導事項と評価に用いる課題が整合していない。

▼書写において、毛筆で上手に書けた1枚を提出させ作品として掲示するなど、当該単元の指導事項（文字の大きさや配列、穂先の動きと点画のつながりなど）の評価が軽視され、作品主義になっている。

国語科の授業づくりQ&A(本時編)



Q1 本時案の作成は何から始めればいいのか？



A1 指導事項を確認しましょう！

くどいようですが、国語科は、「言語活動を通して指導事項を指導する」教科です。単元レベルでも、本時レベルでも、どの指導事項を指導するのかを確認することから始まります。



Q2 本時のめあてはどう設定するの？



A2①与えるのではなく生まれるように工夫しましょう！

「今日はこの活動をやってもらいます」と示した時点で主体的な学びとはなりません。モデル提示による興味関心の喚起や、これまでの学習の確認などを通して、本時の活動の必要感が生まれるよう工夫しましょう。



A2②めあてを達成したゴールの姿を明確にしましょう！

指導事項を具現化した姿であり、当該の授業の終末において、学級のすべての児童生徒が達成しているB基準となる姿を明確にしましょう。その上で、そのために必要となる学習活動を構想し、めあてを設定しましょう。



Q3 個人思考に入る前に気を付けることは？



A3 「できそう」「やりたい」を喚起しましょう！

目指すゴールの姿を明確にすることと、そのための手立てを明らかにすることにより「見通し」を持たせることが大切です。学級の実態に応じて、モデルを示したり、条件を確認したりするなど、見通しを持てるよう工夫することも大切です。



Q4 協動的な学びを実現するためには？



A4① 学習形態を工夫しましょう！

ペア、グループ、全体など、目的に応じた学習形態を取り入れましょう。また、グループの人数や、同じ考えを持ったグループ、或いは異なる考えを持つグループにするなど、意図を持ったグルーピングを行うことも大切です。



A4② ICT を効果的に活用しましょう！

オクリンクやJamboardは、考えを共有するために優れたツールです。一方で、音声言語やプリント等で交流し、ICTを活用しない方が効果的な場合もあります。ねらいの達成に向けて効果的であったか否かを検証することが大切です。



Q5 まとめはどのように行えばいいの？



A5 身に付けた力を自覚させましょう！

終末場面においては、児童生徒自身が、目指すゴールの姿に到達することができたかを確認することができる場面を設定することが大切です。

例えば「読むこと」の「考えの形成」が目標の授業であれば、個人思考→交流・共有の後、終末場面においても一度個人思考の場面を設定し、条件を満たして解答できたか、自分の考えが深まったかなどを確認することがまとめとなります。

また、授業冒頭と終末の自分の考えを比較できるようにすることにより、変容を自覚できるようにすることも工夫の一つです。

児童生徒が、「わかった」「できた」「できるようになった」と実感することができているか否かが、よいまとめができているか否かの指標となります。

課題の見られるまとめの仕方としては、例えば次のような場面が見られます。

- ▼「話すこと・聞くこと」の「話し合い」の学習において、話し合っただけの内容をまとめとし、「話し合いの仕方」がどのように身に付いたかを自覚できる場面がない。
- ▼「読むこと」の「精査・解釈」の学習において、特定の解釈のみをまとめとして示し、児童生徒個々の解釈が評価されない。

国語科の授業づくりのステップ（単元編）

Step1

目標とゴールの明確化（指導事項の明確化）

各学校の教育課程からその単元で身に付けさせたい指導事項を明確にし、単元の目標を設定しましょう。複数の指導事項が示されている場合は、重点を置く指導事項を決め、身に付けさせたい力をより焦点化することが大切です。

あわせて、その目標を達成した児童生徒のゴールの姿を明確にしましょう。単元の終末における理想の振り返りを具体的にイメージすることで、身に付けさせたい力やその力を身に付けさせるために必要となる手立てが明らかになります。

指導事項

単元の目標

単元のゴール

Step2

単元を通して行う言語活動の設定

単元を通して、Step1で明確にした目標とする力を身に付け、目指すゴールの姿へ到達させるための言語活動を設定します。言語活動を設定するには右の4つのポイントに留意することが大切です。

言語活動が決まったら、指導者自身がその言語活動を実際に行ってみることが重要です。実際に行うことで、児童生徒がつまずきそうな点を知ることができ、そのための手立てを工夫することにつながります。単元の導入で学習モデルとして児童生徒に提示することも見通しをもたせるために有効な手立てとなります。

身に付けさせたい力が身に付く言語活動

「やってみたい」、「面白そうだ」を喚起する言語活動

児童生徒の実態を踏まえた言語活動

汎用性があり、生活場面で活用可能な言語活動

Step3

単元の指導計画の作成

第1次では、児童生徒の興味・関心を高める工夫をしたり、学習モデルを提示するなどして単元の見通しや学習への必要感をもたせたりすることが大切です。

第2次では、単元を通して行う言語活動と結び付いた学習活動を通して、単元の目標となる言葉の力を身に付けさせることが必要です。言語活動自体が目的化しないよう、各時間において、どの指導事項を指導するのかを明確にすることも大切です。

第3次では、単元を通じた作成物や表現活動を交流したり、改めて見直したりすることで、自分にどんな力が身に付いたのか、何ができるようになったのかを明らかにさせることが大切です。また、身に付けた力を活用できる場面をイメージさせることにより、今後の学習や生活場面に生かそうとする態度を育むことも大切です。

第1次

- 単元の見通し
- 必要感・意欲化

第2次

- 単元を通じた言語活動との関連
- 指導事項の明確化

第3次

- 身に付けた力の自覚
- 活用しようとする態度

国語科の授業づくりのステップ（本時編）

導入

本時の見通しをもたせる

単元の目標を達成するための本時の目標を設定し、目標の達成につながる学習課題を設定します。本時の目標を設定する際は、どの指導事項に基づくかを明確にすることが必要です。また、全ての児童生徒が達成できるよう、1時間の目標は1つの指導事項に絞ることが大切です。

児童生徒に学習課題を提示する際には、単元の学習計画表等を使って、単元全体の課題解決のために本時がどのような意味をもつかについて意識させることも大切です。

課題の設定に当たっては、「〇〇しよう」という活動のみを示すのではなく、学習活動の方法と目的に加え、目標の達成に向けた手立てを明確にすることにより、「できそうだ」「やってみたい」という意欲が高まり、主体的な学びの実現につながります。

モデルの提示

グッドモデルやバッドモデル、エラーモデルなどを示すことにより、学習活動の方法や本時の課題解決に向けた視点を明確にし、見通しをもたせることができます。

条件の明示

課題設定の際、例えば次のような条件を明らかにすることにより、課題解決の視点が明確になります。

- 考えとその根拠を明確にする
- 字数を制限する
- 資料から引用する
- 複数の叙述を根拠とする

5つの言語意識

見通しをもたせる際、次のような言語意識をもたせることも大切です。

- ①目的意識
- ②相手意識
- ③方法意識
- ④場面・条件意識
- ⑤評価意識

展開

課題を解決させる

展開場面では、課題の解決に向けて、個人で思考する場面とともに、対話を通して考えを広げ深めることが大切です。

また、交流の後、自分が一度、言葉で表現したり理解したりした内容を改めて捉え直すことにより、考えを深めることにつながります。

学習形態

ペア、グループ、全体などねらいに合った学習形態を取り入れることが大切です。その際、方法や目的、条件などの視点を明らかにしてから活動させましょう。

発問・指示

児童生徒の思考の状況に応じて、新たな視点を示したり、課題解決に向けて方向付けたりすることが大切です。

終末

身に付けた力を自覚させる

終末場面においては、課題に対する最終的な自分の考えをまとめたり、できるようになったことを表現したりする場面を設定することが大切です。これらは、児童生徒一人一人が異なるものであるため、全体で一つの「まとめ」に収束させることに固執する必要はありません。そのようなまとめの後、1時間の学びを通して、本時の目標と正対して自分にどのくらい力が付いたか、何ができるようになったかを自覚できるよう振り返らせましょう。そのためには、導入場面で児童生徒に本時のゴールの姿を明確にしておくことや、振り返りを行う際に教師が観点を明示することが大切です。また、児童生徒が授業の冒頭と終末における自分の変容を視覚的に捉えられるよう工夫することも大切です。

国語科の授業づくり 例

P 5, 6の「国語科の授業づくりのステップ」に合わせて、授業づくりを行います。

国語科の授業づくりのポイント

導入

活動や方法のみにとどまらず、「できそうだ」「やってみたい」という意欲を高められるよう、目的意識や必要感をもたせる工夫をしましょう。

展開

言語活動を通して、目指すゴールの姿へ到達できるよう、協動的に学ぶ場面を設定するなどの工夫をしましょう。

終末

目標に正対し、身に付けた力を実感したり、その力を今後に生かそうとする意欲をもったりできるよう、観点を明確に示しましょう。

授業例

小学校第6学年「海の命」

単元を通して身に付けさせたい力

○登場人物の生き方について、考えを深めながら読む力
【目指すゴールの姿（B規準）】登場人物の考え方・生き方と、それに対する自分の考えを叙述を根拠にして表現している。

Step1

指導事項を基にして焦点化しましょう。

Step2

身に付けさせたい力を付けるのに最適な言語活動を設定しましょう。

Step3

全ての児童が目指す単元のゴールの姿を実現できるよう、逆算して指導計画を作成しましょう。

単元を通して行う言語活動

第一次
1時間

①既習の文学教材等を想起し、登場人物の考え方・生き方に興味をもち、単元の学習の見通しをもつ。

導入

教師がモデルを示すなどして「単元を通して行う言語活動」に興味をもち、「やってみたい」という気持ちを高めます。また、単元で目指すゴールの姿を明らかにします。

第二次
3時間

②教材文を読み、構成や内容などについて描写を基に捉える。

③④主人公「太一」の考え方や生き方に影響を与えた事柄を他の人物との関わりに着目して読む。登場人物の生き方とそれに対する自分の考えをもつ。

展開

「読むこと」の指導事項である「構造と内容の把握」→「精査・解釈」→「考えの形成」に沿って展開し、第3次の「共有」につなげます。いずれの時間においても、個人思考の後、グループや全体での交流を通して考えを深め、終末で改めて自分の考えをまとめます。

第三次
1時間

⑤考えたことをグループで話し合い、自分の考えを深める。

終末

全ての児童が単元の目標が達成できたことを自覚できるよう留意します。また、本単元の学びを今後の生活に生かそうとする態度を育みます。

登場人物の考え方・生き方について、考えを伝え合う。

本時の目標

文章を読んでまとめた考えを共有し、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。(5/5時間目)【読むこと カ】

指導事項を基にして
焦点化しましょう。

5

指示 自分の考えの①～③に当たるところに赤鉛筆で直線を引き、①、②、③と書きましょう。①～③が引けた人は手を挙げましょう。→全員、条件を満たして解答できていますね。

指示 友達との交流を通して、考えが広がった、あるいは変わらないけど自信や根拠が深まった人は挙手しましょう。→全員、今日の目標が達成できました。

指示 太一の考え方・生き方への関わりについても書けた人はいますか。→すばらしい。

本時のゴールの姿と、到達するための手立てを説明し、「できそうだ」を生み出します。

3

指示 同じ人物について考えをまとめた人、3～5人のグループに分けました。20分間、〇〇の視点などから感想を交流します。その後、10分程度、自分の考えを改めてまとめる時間を持ちます。そのときに、自分の考えが広がっていたり、同じ考えでも自信や根拠が深まったりしていれば、今日の授業の目標は達成です。

第二次のゴールとして、全ての児童が整理している内容について、教師のモデルを例示して感想を聞きます。この活動を通して、互いの考えについて、感想を述べ合うことへのイメージや必要感を持つことへ繋がります。

1

発問 先生は、与吉じいさの考え方・生き方をこのように考えました。この考えに、どのような感想をもちますか。

海の命

登場人物の考え方・生き方(太一への関わり)
例 与吉じいさは海に感謝して生きた人である。

それは、「千びきに一びきでいいんだ」という言葉などから分かる。

その考え方・生き方について、私は、共感でき、自分も必要以上に動植物の生命を奪わず、自然を大切にしたいと考える。

めあて

互いの意見をグループで交流して、自分の考えを深めよう。

学習の流れ

○自分の考えの確認

【条件】

①与吉じいさ、父、母いずれかの考え方・生き方

②その根拠となる叙述「」で引用

③登場人物の考え方・生き方に対する自分の考え

A 太一の考え方・生き方への関わり

○グループで共有・感想交流(二十分)

【感想交流の視点】

・共通・相違 自分は〇〇に着目したから……

・共感・非共感 ○〇は共感できるけど……

・視点の転換 違う叙述では……

○自分の考えの再整理(十分)

○まとめ・振り返り(五分)

・条件を満たしているか(①～③ A)

・どの程度考えが深まったか

振り返り
・「海の命」の学習にどのように取り組んだか
・今後、物語文を読むときに意識したいこと

6

指示 観点に沿って、これまでの学習を振り返りましょう。

終末においては、全ての児童が、本時のゴールの姿に達成したことを確認する場面を設定し、「できた」「できるようになった」と実感できるようにすることが大切です。

4

追加指示例 感想交流が早く終わったグループは、個人で動き回り、自由に交流しましょう。

追加指示例 感想交流が早く終わった人は、オクリンクでいろいろな人へ感想を送りましょう。

課題解決の活動が停滞しないよう、グループ化の工夫、ICTの活用、論点の整理など、様々な手立てを準備しておくことが大切です。

2

説明 皆さんの感想を聞いて、先生は自分の考えについて、〇〇など、考えを深めることができました。皆さんも、先生と同じように、友達の感想を聞いて、自分の考えを深めたいと思いませんか。

児童の「やってみたい」を引き出し、課題を与えるのではなく生まれるように工夫します。

【小学校低学年用】

【中学校第1学年用】

名人シート 小学校低学年

話すときのポイント

① 話すことをきめるとき

- ・学校やお家、ちいきでのできごとや、じぶんがけいけんしたことを思い出そう。
- ・1番(ばん)話したいことをえらぼう。

② 話すメモを作るとき

- ・話すじゅんばんを考えよう。
- ・はじめ-中-おわりのまとまりをつくろう。

③ 話すときに気をつけること

- ・あいてに聞こえる声の大きさ
- ・聞きやすいはやさ
- ・だいいなことは大きな声でゆっくり

授業力向上図鑑プロジェクトチーム

名人シート 中学校1学年

話すときのポイント

① 話す内容を考えるとき

- ・話題について特に伝えたいことは何かをはっきりさせよう。
- ・必要な説明や具体例は何かを短く箇条書きで書き出してみよう。

② 話すメモを作るとき

- ・①で集めた材料を並べる順番を考えてナンバリングなどをしながら組み立てよう。(簡単な構成メモをつくるといいよ。)
- ・接続語や文末表現(～だ、である、です、ます)、時間の流れなどもよく考えよう。

③ 話すとき

- ・聞き手のうなずきや表情などの反応を見ながら言葉の選択や話すスピード、音量、間の取り方などに気を付けて話しよう。
- ・キャッチコピー、表やグラフ、ランキング形式など必要に応じて伝え方を工夫してみよう。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム

【小学校中学年用】

【中学校第2学年用】

名人シート 小学校中学年

話すときのポイント

① 話す内容を考えるとき

- ・目的をいしきて、日常生活から話題を決めよう。
- ・本や文章を読んだり、人に聞いたりして、材料を集めよう。

② 話すメモを作るとき

- ・あい手に伝わるように、理由やれいをあげよう。
- ・話の中心が伝わるように順番を考えよう。

③ 話すときに気をつけること

- ・時と場に合った声の出し方や言葉づかい、しせん
- ・言葉のよくようや強弱、間の取り方

授業力向上図鑑プロジェクトチーム

名人シート 中学校2学年

話すときのポイント

① 話す内容を考えるとき

- ・話題について、自分の伝えたいことと合わせて、考えや立場(賛成・反対など)を書き出してみよう。
- ・考えの根拠・理由は何かを考えてみるといいよ。

② 話すメモを作るとき

- ・筋道の通った話になるようにどのような順序で話す事柄を並べたら聞き手に伝わるかなどを考えて、話を構成しよう。

例 話題・考えや立場(簡単に)→根拠・具体例・体験→意見(まとめ)

③ 話すとき

- ・本、図表、グラフ、写真などを含む資料などを活用しよう。
- ・パソコンなどのプレゼンテーションソフトやフリップなどを使って話すと、より聞き手に伝わりやすかったり、興味を引きつけたりすることができるよ。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム

【小学校高学年用】

【中学校第3学年用】

名人シート 小学校高学年

話すときのポイント

① 話す内容を考えるとき

- ・話す目的や意図にあった材料を日常生活から集めよう。
- ・材料を内容ごとにまとめたり結びつけたりして整理しよう。

② 話すメモを作るとき

- ・内容が明確になるよう話す順序を考えよう。
- ・事実と感想、意見とを区別しよう。(接続語や文末表現に注意)

③ 話すときに気をつけること

- ・目的や相手、状況などにあった資料の提示やその順番
- ・視線や指示の仕方

授業力向上図鑑プロジェクトチーム

名人シート 中学校3学年

話すときのポイント

① 話す内容を考えるとき

- ・色々な考えをもつ相手に理解・納得してもらえるように、意見の根拠・理由をはっきりさせよう。

② 話すメモを作るとき(組み立ての工夫の仕方の例)

- ・伝えたい内容に関する体験談を交えてみよう。
- ・具体例を根拠としてみよう。
- ・説明の順序を工夫してみよう。
- ・聞き手を納得させる語句を選んでみよう。

③ 話すとき

- ・聞き手の人数や立場、話す会場の広さなどにより次の工夫をしてみよう。
例 「内容を補足する」「問いかけや質問を促す」など

「話題提示」では、問いかけや呼びかけを…
「内容の説明」では、丁寧な言葉の説明を…体験(事実)と考え・思いを区別して…
「まとめ」では、呼びかけや印象に残る表現で…

授業力向上図鑑プロジェクトチーム

【小学校低学年用】

【中学校第1学年用】

名人シート 小学校低学年用

話し合いのポイント

- ともだちの話をよく聞こう。
- 聞きたいことがあったら、しつもんをしよう。
- 話を聞いて思ったこと(かんそう)をつたえよう。
- つぎのことばをつかおう。

- ・「うんうん」、「なるほど」、「へー」
- ・「もう一回、言ってくれる？」
- ・「〇〇っていうこと？」

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校1学年用

話し合いのポイント

- ① **話し合いを始めるとき**
 - ・目的や話題、話し合いの進め方について確認しよう。
 - ・話し合いを始める前にテーマに関係する材料を集め意見を述べる前に整理しておこう。
- ② **話し合うとき**
 - ・意見を述べるときは自分の意見や立場、その根拠となる事実について簡潔に発表しよう。
 - ・仲間の話を聞くときは、要点や疑問点についてメモをとろう。
 - ・メモをした疑問点を質問したり、お互いの共通点や相違点について意見を出し合おう。
 - ※質問するときには誰のどの発言についてかをはっきり伝えよう。
 - ※話し合いに行きづまったり、対立したりしたら、目的に戻ろう。
- ③ **話し合いをまとめるとき**
 - ・納得できる意見を選んだり、お互いの考えを結びつけたりして、話し合いをまとめていこう。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

【小学校中学年用】

【中学校第2学年用】

名人シート 小学校中学年用

話し合いのポイント

- ① 始める前に、話し合いの目的や内容、目指すゴールを確認しよう。
- ② 役割を決めて話し合おう。

- ・司会者・参加者に発言をうながしたり、発言の似ている点やちがう点を確認したりして、話し合いがまとまるように進行する
 - ・参加者・話し合いの流れをふまえて、理由をつなげて意見を言う
- ③ 友だちの意見と自分の意見の似ているところやちがうところを見つけ、自分の考えをまとめよう

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校2学年用

話し合いのポイント

- ① **話し合いを始めるとき**
 - ・目的や話題、話し合いの進め方、テーマに対する互いの立場などを確認しよう。
 - ※本や新聞、インターネットなどから根拠となる情報を幅広く集めておくことで充実した話し合いになるよ。
- ② **話し合うとき**
 - ・聞き手から反論されたりや意見を求められたりすることを予想して意見を述べ合おう。
 - ※他の人と自分の意見との共通点、相違点などをメモしながら聞くといいですよ。(司会者は各立場の意見の共通点や相違点をメモしておこう。)
- ③ **話し合いをまとめるとき**
 - ・それぞれの立場や仲間がなぜそのような意見を述べているのかを理解し、共通点や相違点、話し合いの中での新たな提案をもとにしながら結論に向かって話し合いをまとめていこう。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

【小学校高学年用】

【中学校第3学年用】

名人シート 小学校高学年用

話し合いのポイント

- ① 始める前に、話し合いの内容、順序、時間配分、目的やゴールを明確にしよう。
- ② 意見を述べるときは、自分の立場(賛成、反対など話題に対する考え)と、その理由を明確にしよう。
- ③ 話し合った後は、異なる意見も生かすようにしながら、自分の考えをまとめよう。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校3学年用

話し合いのポイント

- ① **話し合いを始めるとき**
 - ・司会者、提案者、参加者などそれぞれの立場で目的に沿った話し合いの仕方や流れを確認しよう。
- ② **話し合うとき**
 - ・進み具合や流れを振り返りながら結論に向かって話し合いを進めていこう。
 - ・話し合うべきポイントが複数あるときは、下記のように話し合いを進めよう。
 - ※全体に関わる大きな論点 → 具体的な論点へ
 - ・各自の意見を結び付けたり、必要な意見を取捨選択したりして、よりよい結論を目指していこう。
- ③ **話し合いをまとめるとき**
 - ・異なった立場や考え方がある場合にも、お互いの違いを認めつつ、共通点や新たな考え方を導き出していく中で考えを深めていこう。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

【小学校低学年用】

【中学校第1学年用】

名人シート 小学校低学年用

ざいりょうあつめ・かくことをきめる

まとめるときのポイント

①書(か)くざいりょうをあつめるとき
・つぎのことから、ざいりょうをあつめよう。

- ・したこと ・見たこと(大きさ、色、形)
- ・かんじたこと(気持ち) ・気づいたこと
- ・きもんに思ったこと など

②書(か)くことをきめるとき
・あつめたざいりょうから、書(か)きたいことをきめよう。
・じゅんじょにそって書(か)くじゅんばんをきめよう。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校1学年用

情報収集・整理編

レポート作成のポイント

①レポートの情報を集める前に
・何のために、どのようなテーマ・内容で書くのかなどをはっきりさせよう。

②材料を集めるとき
・目的に応じて材料や情報を集めるときは、下記の手段を参考に必要な材料や情報を収集しよう。

【情報を収集する手段の例】

- ・本・文章・パンフレット・リーフレット・雑誌・新聞
- ・音声や映像・アンケート など

※集めた資料は出版社・出版年・URL・見た年月日・アンケート対象者の所属・回答数など記録しておこう。

③集めた材料を整理するとき
・収集した材料は、比較しながら取捨選択したり、種類ごとに分けたり(複数の語句を線でつないだり、線でくったりしながら)してみよう。
・原因と結果、意見と根拠などの関係を見つけ、レポートをまとめるために整理しよう。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

【小学校中学年用】

【中学校第2学年用】

名人シート 小学校中学年用

情報収集・整理編

レポート作成のポイント

①書くために必要な情報を集めるとき
・相手や目的を明確にしよう。

- ・誰に対して書くのか ・何のために書くのか
- ・読み手はどのようなことを知りたいのか など

②集めた材料を選ぶとき
・情報を整理して、目的に応じた情報を選ぼう。

- ・共通点や相違点に着目して分ける
- ・共通する性質に基づいて分類する

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校2学年用

情報収集・整理編

レポート作成のポイント

①レポートの情報を集める前に
・何のために、どのようなテーマ・内容で書くのかなどをはっきりさせよう。

②材料を集めるとき
・根拠となる情報や材料は下記の手段を参考に様々な方法を活用して幅広く収集しよう。

【情報を収集する手段の例】

- ・本・文章・パンフレット・リーフレット・雑誌・新聞
- ・音声や映像・インタビュー・アンケート など

※集めた資料は出版社・出版年・URL・見た年月日・アンケート対象者の所属・回答数など記録しておこう。

③集めた材料を整理するとき
・収集した材料や情報は、目的に応じて比較しながら取捨選択したり、種類ごとに分けたりしよう。(複数の語句を線でつないだり、線でくったりするといはよ。)
・原因と結果、意見と根拠などの関係付けをしながら整理し、様々な角度から検討して伝えたいことを明確にしよう。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

【小学校高学年用】

【中学校第3学年用】

名人シート 小学校高学年用

情報収集・整理編

レポート作成のポイント

①書くために必要な情報を集めるとき
・目的や意図を明確にしよう。

- ・誰に対して書くのか ・何のために書くのか
- ・読み手はどのようなことを知りたいのか など

②集めた材料を選ぶとき
・情報を整理して、目的に応じた情報を選ぼう。

- ・優先順位を考えて並べる
- ・賛成、反対の両方の立場の情報を分析する
- ・情報を互いに結び付けて関係を明確にする

【情報を収集する対象・手段の例】

- ・本・文章・パンフレット・リーフレット・雑誌・新聞
- ・音声や映像・インタビュー・アンケート など

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校3学年用

情報収集・整理編

レポート作成のポイント

①レポートの情報を集める前に
・何のために、どのようなテーマ・内容で書くのかなどをはっきりさせよう。

②材料を集めるとき
・根拠となる情報や材料は下記の手段を参考に様々な方法を活用して集めよう。
・材料を集めるときは、より客観性や信頼性の高い適切な情報を収集しよう。

【情報を収集する手段の例】

- ・本・文章・パンフレット・リーフレット・雑誌・新聞
- ・音声や映像・インタビュー・アンケート など

※集めた資料は出版社・出版年・URL・見た年月日・アンケート対象者の所属・回答数など記録しておこう。

③集めた材料を整理するとき
・収集した情報は、取捨選択し、種類ごとに分けよう。(複数の語句を線でつないだり、線でくったりするといはよ。)
・原因と結果、意見と根拠などの関係付けをしよう。
・情報がたりなければ、根拠となる情報を、再度収集することも大切だよ。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

【小学校低学年用】

【中学校第1学年用】

名人シート 小学校低学年用

書(か)くとき

まとめるとき のポイント

- かん字やひらがな、カタカナを正しく書(か)こう。
- 文のおわりには。(くてん)をつけよう。
- 文をわかりやすくするために、(とうてん)をつけよう。
- 会話文(かいわぶん)には、「」(かぎ)をつけよう。
- はじめー中ーおわり のくみ立てをかんがえて書(か)こう。

授業力向上国語プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校1学年用

記述編

レポート作成 のポイント

- レポート作成をするときは、何のために、どのようなテーマ・内容で書くのかを確認し、取捨選択した材料や情報を自分の考えが伝わるように構成を工夫して書こう。
- 自分の伝えたいことが伝わるように、複数の具体例(事実)を(項目に分けて)あげながら、根拠を明確にして書き表そう。

【例】

| | |
|--------------------------|----------|
| 1. テーマ・課題について | 2. 調べた方法 |
| 3. 実験・調査の結果・事実(I II III) | |
| 4. まとめ(考え・意見) | |
| 5. 参考資料 など | |

- 自分の考えや意見を、その根拠となる「確かな事実となる根拠」に基づいて書こう。
(事実となる根拠→意見)

授業力向上国語プロジェクトチーム作成

【小学校中学年用】

【中学校第2学年用】

名人シート 小学校中学年用

記述編

レポート作成 のポイント

- 文字の表記などに気をつけて書こう。
・漢字や仮名 ・送り仮名のつけ方 ・改行の仕方
・(とうてん)や。(くてん)の打ち方
- 文章を正しく、分かりやすく書こう。
・主語と述語の関係 ・「こ・そ・あ・ど言葉」
- 自分の考えが明確になるように書き表し方をくふうしよう。
・理由を書こう
「なぜかという～」「その理由は～」「～ためである。」
・例をあげて説明しよう。
「例えば～」「事例をあげると～」「～などがそれに当たる」

授業力向上国語プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校2学年用

記述編

レポート作成 のポイント

- レポート作成をするときは何のために、どのようなテーマ・内容で書くのかを確認し、取捨選択した材料や情報を自分の考えが伝わるように構成を工夫して書こう。
- 構成を工夫するときは、説得力が増すように考えや意見の根拠となること(実験の結果・事実)を、ナンバリングなどして項目に分けて具体的に書き表そう。

【例】

| | |
|--------------------------|------------|
| 1. テーマ・課題について | 2. 調べた方法 |
| 3. 実験・調査の結果・事実(I II III) | |
| 4. 考察(考え・意見) | 5. 参考資料 など |

- 根拠を書くときには、下記のことを考えながら書くといいですよ
I 確かな「事実や事柄」に基づいたもの(データ)になっているかな？
II 「事実や事柄」と自分の考えがしっかりつながっているかな？ など

授業力向上国語プロジェクトチーム作成

【小学校高学年用】

【中学校第3学年用】

名人シート 小学校高学年用

記述編

レポート作成 のポイント

- レポート作成の目的や意図に応じて、詳しく書く内容と簡単に書く内容を判断しよう。
- 自分の「感想や意見」と、その裏付けとなる「客観的な事実」を区別して書こう。
- 自分の伝えたいことが伝わるように、「引用」したり、「図形やグラフ」等を用いたりして、書き表し方を工夫しよう。
【文章や図形、グラフ等を引用した場合】
引用した資料名を書くことが必要です。本から引用した場合は、著者名・書名・出版社名・発行年を書きます。
- 伝えたいことが伝わるように、全体の構成や割り付けを工夫しよう。

授業力向上国語プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校3学年用

記述編

レポート作成 のポイント

- レポート作成の目的に応じて、文体や簡潔な述べ方と詳しい述べ方、事実と意見の関係などに気付けて構成を工夫しよう。
- 目的に応じて、内容のまとまりごとに見出しをつけたり、番号をふったり、注釈をつけるなど表現の仕方を工夫しましょう。

【例】

| | |
|--------------------------|------------|
| 1. テーマ・課題について | 2. 調べた方法 |
| 3. 実験・調査の結果・事実(I II III) | |
| 4. 考察(考え・意見) | 5. 参考資料 など |


- 自分の考えの根拠としてふさわしい資料を引用したり、自分の考えとの関係について補足したりすることが大切です。引用の際には下記のように出典の明示し、図表などを引用する際には「図1は」など本文との関連を示しましょう。
【文章や図形、グラフ等を引用した場合】
引用した資料名を書くことが必要です。本から引用した場合は、著者名・書名・出版社名・発行年を書きます。

授業力向上国語プロジェクトチーム作成

【小学校低学年用】

【中学校第1学年用】

名人シート 小学校低学年

推敲 の  **ポイント**


○ 一文一文、ていねいに読(よ)みかえしましょう。

- 書(か)いてある字は正しいですか。
・かん字、ひらがな、カタカナ ・小さい「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」
- ぬけている字はありませんか。
- くてん(。), どうてん(。), かぎ(「」)のつかいかたは正しいですか。
- 「は」「を」「へ」のつかいかたは正しいですか。

じぶんが書(か)いた文しょうを声に出して読(よ)んでみると、まちがいに気づくことがあります。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム 4/4

名人シート 中学校1学年

推敲 の  **ポイント**

○ 文章全体を見て、読み手の立場に立って、伝えたいことが伝わるかを確認めよう。


- 漢字・仮名遣い・送り仮名が正しく使われているかな。
- 文体が常体が敬体かで統一されているかな。
- 句読点などの符号の使い方は適切かな。
- 語句の使い方、係り方や語順は、分かりやすいものになっているかな。
- 段落の順序やつながりが適切であるかな。
- 主語と述語がねじれていないかな。
- 一文が長すぎ、あるいは、短すぎないかな。
- より分かりやすい言葉に置き換えることはできないかな。
- 比喩や反復、倒置など、表現の工夫はできないかな。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム 4/4

【小学校中学年用】

【中学校第2学年用】

名人シート 小学校中学年


推敲 の  **ポイント**

○ よりよい表現になるように、書いた文章を読み返しましょう。

- 学習した漢字が正しく使われていますか。
- 主語と述語がねじれていませんか。
- 「は」「を」「へ」の使い方は正しいですか。
- 文の終わり方はそろっていますか。
・じょう体・・「ーだ。」「ーである。」
・けい体・・「ーです。」「ーます。」
- 相手や目的に合った表現になっていますか。
・だれに向けて書いているか。
・何のために書いた文章なのか。
- 内容のまとまりごとに、段落を分けて書いていますか。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム 4/4

名人シート 中学校2学年

推敲 の  **ポイント**

○ 文章全体を見て、読み手の立場に立って、伝えようとしていることが伝わるかを確認めよう。


- 説明や具体例、描写は、伝えたいことを伝えるために適切かな。
- 漢字・仮名遣い・送り仮名が正しく使われているかな。
- 文体が常体が敬体かで統一されているかな。
- 句読点などの符号の使い方は適切かな。
- 語句の使い方、係り方や語順は、分かりやすいものになっているかな。
- 段落の順序やつながりが適切であるかな。
- 主語と述語がねじれていないかな。
- 一文が長すぎ、あるいは、短すぎないかな。
- より分かりやすい言葉に置き換えることはできないかな。
- 比喩や反復、倒置など、表現の工夫はできないかな。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム 4/4

【小学校高学年用】

【中学校第3学年用】

名人シート 小学校高学年


推敲 の  **ポイント**

○ 文章全体の構成や書き表し方に着目して、書いた文章を見直しましょう。

- 学習した漢字が正しく使われていますか。
- 主語と述語がねじれていませんか。
- 語句の係り方や語順は、分かりやすいものになっていますか。
- 一文が長すぎませんか。あるいは、短すぎませんか。
- より分かりやすい言葉に置き換えることはできませんか。
- 比喩や反復、倒置など、表現の工夫はできませんか。
- 文章全体を見て、内容や表現はそろっていますか。
- 書く目的に照らして、適切な構成や内容ですか。
- 事実と感想、意見とが区別されていますか。
- 引用の仕方、図表やグラフ等の用い方は適切ですか。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム 4/4

名人シート 中学校3学年

推敲 の  **ポイント**

○ 文章全体を見て、書く目的や意図に応じた表現になっているかを確認めよう。

- 説明や具体例、描写は、伝えたいことを伝えるために適切かな。
- 漢字・仮名遣い・送り仮名が正しく使われているかな。
- 文体が常体が敬体かで統一されているかな。
- 句読点などの符号の使い方は適切かな。
- 語句の使い方、係り方や語順は、分かりやすいものになっているかな。
- 段落の順序やつながりが適切であるかな。
- 主語と述語がねじれていないかな。
- 一文が長すぎ、あるいは、短すぎないかな。
- より分かりやすい言葉に置き換えることはできないかな。
- 比喩や反復、倒置など、表現の工夫はできないかな。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム 4/4

国語科におけるICT活用例

小学校

(1) 言葉や漢字、文の分類で活用する

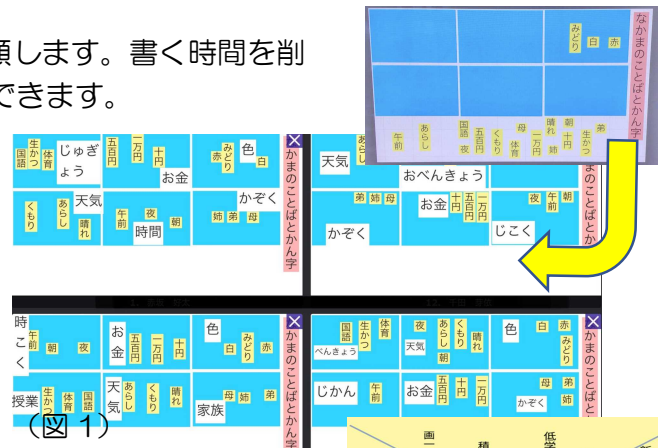
タブレット画面上のカードを移動して分類します。書く時間を削減できるとともに、容易にやり直すことができます。

オクリンクなどで実施が可能です。シートに必要な言葉や熟語を準備する必要がありますが、授業のねらいを達成するための時間を確保することができます。

図1は2年生「なかまのことばとかん字」、図2は6年生「熟語の成り立ち」の実践例です。

授業の展開例は次の通りです。

- ①児童にシートを配付
- ②個別学習1（分類する）
- ③グループ交流1（比較する）
- ④グループ交流2（分類名を付ける）
- ⑤全体交流1（分類名を確認）
- ⑥個別学習2（分類ごとに他の言葉を探す）
- ⑦全体交流2（いろいろな言葉を知る）



(図1)



(図2)



(図3)

低学年はノ

ートに文字を書くのに時間がかかります。書くことも大切ですが、文をシートにすることで、写真と文を合わせることもできます。図3は1年生「うみのかくれんぼ」の実践例です。

(2) お互いの立場を把握して話し合う

オクリンクなどで児童のシートを集める際、立場によってシートの色を指定することで、画面共有したときに、どの立場の人が多いのか、誰がどんな立場なのかを瞬時に知ることができます。図4は、5年生「どちらを選びますか」で、「校長先生に動物を飼うことを勧めるなら犬か猫か」を考え、立場を明らかにして作成したシートの一覧で、犬が青、猫は黄、選べないは白です。

ここから、同じ立場や違う立場の人を見つけて話し合いの糸口にすることができます。



(図4)

★ちょっと豆知識！！★

タブレットは立てずに平置きすると教師が画面の状況を把握できます。また、オクリンクを操作する際、写真のように上の部分を少しだけ開けると、スリープにならずに、オクリンクのログインが継続されます。操作はしないけど、再ログインの手間を省きたいときにおすすめです。



国語科におけるICT活用例

中学校

(1) 書いた文章を交流する

生徒がタブレットを用いて作成した文書を、グループや学級で交流する場合、Google Classroomの以下の機能を使うと便利です。他の生徒の文書を見るのはもちろん、コメントを記入したり、編集したりすることができます。図1は、1年生「作品の書評を書く」の実践例です。



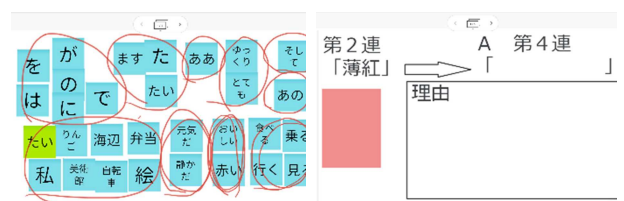
(図1)

【Classroomの設定手順】

- ①GoogleドライブのClassroomフォルダをタップ
 - ②該当クラスのフォルダをタップ
 - ③課題ごとのフォルダがあるので、使用するフォルダの「…」をタップ
 - ④「共有」をタップし、「アクセスできるユーザー」を設定
 - ⑤「リンク設定」で「リンクを知っている人全員」をタップし「閲覧者」か「閲覧者（コメント可）」か「編集者」を選択
 - ・「閲覧者」は閲覧のみ
 - ・「閲覧者（コメント可）」はコメントができる
 - ・「編集者」は編集ができる
 - ⑥リンクをコピーし、該当クラスのClassroomのストリームに貼り付け
- 以上のように進めると、「共有」段階で他の作品を見て参考にしたり、具体的な記述を取り上げて助言したりして、「推敲」段階に生かすことができます。

(2) 話し合いで意見をまとめる

課題に基づいて話し合ったり、グループの意見をまとめたりするときには、Jamboardが便利です。ボードを一人一人に用意することもでき、グループに割り当てることもできます。図2は、3年生「文法の扉」と「初恋」の実践例です。



(図2)

★ちょこっと豆知識！！★

書くことに関する学習では、原稿用紙や便箋もよいですが、思い切ってタブレットで書かせてみてはいかがでしょうか。タブレットのよさは、何と言っても「書き直しが容易」であることです。書くことが面倒と言う生徒も、主体的に、そして粘り強く活動します。我々教師も、横書きの作文を受け入れましょう！